

令和7年度学校評価自己評価表（評価計画）

A：100%以上 B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満

廿日市市立佐方小学校

評価計画							自己評価					改善方針	学校運営協議会 委員評価コメント	
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための 具体的な方策	評価項目・指標	目標値	昨年度 数値	分掌	中間 10月	達成度 (10月)	最終 2月	達成度 (2月)	評価			結果と課題の分析
【確かな学力・学び続ける力】 ・課題の解決に向けて、自ら考え、表現する力を身に付ける。	◎「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業づくり ・ICTを活用した授業づくり	<全国学力・学習状況調査児童質問紙> 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合【市共通項目】【中学校区共通項目】	85%	91.0%	教務	85.1%	A	—	—	A	<全国学力・学習状況調査児童質問紙> ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童の割合は目標を上回った。、相手にわかりやすく伝えるために必要な情報は何かを判断し、表現することを意図的・積極的に学習活動に取り入れてきた成果が現れたと考える。 また、昨年度より取り組んでいるクリエイティブデーに関する取組等を通して、児童が主体的に考え、学ぶというスタイルが定着してきていると考えられる。 廿日市市学力定着状況調査の結果では、6学年中3学年が全国平均を上回った。 <ICTの効果的な活用> ・結果としては目標値をやや下回った。実際にはほぼ毎日活用している児童はもっと多い。授業改善や「子どもが主役の授業を推進していこう！事業」の結果が表れてきている。	・引き続き、全児童が課題解決へ向けて意欲的に取り組んでいけるよう、「主体的な学び」の実現に向けて、単元開発、発問の工夫など、授業改善に取り組んでいく。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業づくりをより一層充実していくために、ICTの活用や単元計画の見直し、研修等も含め、検討していく。 ・廿日市市教育委員会の「子どもが主役の授業を推進していこう！事業」を受け、1・2学期に取り組んできた積極的なICTの活用の推進を今後も継続して取り組んでいく。また、教科の特性や具体的な場面に応じたICTの活用方法等についての研修を深め、教員一人一人のスキルアップを図っていく。	・どの学級もICTを活用できている。廿日市市学びのアンケートの結果は、学年が上がるにつれて肯定的評価が下がっていく傾向にあるが、特に6年生は効果的な活用方法について厳しく捉えているからその結果であったのではないかと考えている。今後、ICTの活用についてどのようなレベルを求めていくのかを考えていってほしい。 ・指定事業を受けたことで苦学意識を持っている教職員も使ってみようという意欲につながり、教職員の意識向上につながったのはとても良い。 ・今後もICTの効果的な使い方について今後も研修していってほしい。
			<算数科における思考・判断・表現> ・算数の廿日市市学力定着状況調査の「思考力・判断力・表現力の観点の問題による評価において、全国平均を上回る学年の割合	100%	—		—	50.0%	50.0%	D				
			<ICTの活用> ・タブレットを授業の中で、ほぼ毎日活用している。（3学年以上）	70%	41.8%		44.1%	D	63.2%	90.3%	B			
【豊かな心】 ・向社会的行動を行い、良好な人間関係を築く力を身に付ける。	◎生徒指導の三機能を意識した集団づくり	・人と関わるよさを感じる取組 ・いじめ・不登校への積極的な取組	<向社会スキル> 「相手の気持ちになって考えたり行動できたりする」で肯定的な評価をした第3学年以上の児童の割合（アセス「向社会スキル」の項目）	90%以上	81.5%	生徒指導	96.0%	A	95.3%	105.9%	A	・引き続き、児童同士がお互いの思いを自分の言葉で伝えられる場を大切にしていこう。また、グループアプローチに全校で取り組み、他者への関わり方のスキルを身に付けられるようにする。 ・「自分は困っている友達を助ける自信がある」という、能動的な向社会スキルを高める必要がある。協力したり相手に思いやりをもって接したりするために、異学年交流やSSTに取り組む。	・SNSについては、保護者のモラルや知識の低下によるところが大きいのではないかと考えている。子どもは保護者の背中を見て育つ。SNS教室には保護者自身が参加していく必要があるのではないかと考えている。今後のカリキュラムを定めるきっかけにしてほしい。 ・挨拶を大切にしていってほしい。 ・お互いの気持ちを理解し合うことが大切だと思う。	
			<学びのアンケート> 「自分のクラスは安心して学習できると感じますか。」で肯定的な評価をした第3学年以上の児童の割合	95%以上	95.0%		94.0%	B	95.2%	100.2%	A			
【体力の向上・安全】 ・災害の危険を理解し、安全な行動ができる。 ・主体的に体を動かす、体力を向上させる。	◎安全な行動や危険を回避する行動の仕方を学ぶ機会を設定 ・新体力テストの課題を解決するための場づくり	・主体的に取り組む避難訓練の実施 ・握力向上への取組	・事前予告あり・事前予告なしの避難訓練後のアンケートの実施 『移動の時、「おはしもて」はできたか。』『集合場所に落ち着いてすばやく行けたか。』『集合場所は知っているか。』	3項目で100%	—	健康教育	96.3%	B	96.5%	96.5%	B	・すべての訓練の3項目の値を100%にしていこう。避難訓練ごとの事前指導をしっかり行う。または、生活科・社会科等の教科も横断して学習していきながら、防災「自助」の意識を高めていく。 ・新学年の4月当初にそれぞれの災害の避難場所と経路を確認を行い、避難訓練での確認が無くても全児童に避難経路や避難場所を周知する。また、障害物を置く等、予告なしの避難訓練をより実践的にする。 ・今年握力グリップを各クラスに配布し、定期的な使用を促した。握力の平均値が向上した児童の割合が80%以上にするために、来年度は、握力グリップの使用頻度を上げるイベントを行う。また、「握力」と「全身の筋力」と関係していることから、全身運動やボール運動に親しむ機会も増やす。	・今年度の防災の取組は素晴らしい。今後は防災士会に声をかけて参加していけるようにしていこう。防災に関する情報を収集して、今後の取組に生かしていってほしい。 ・防災の取組は地域の声で子どもの意識や担任の気持ちが変わることを実感できた。今後も子ども自身が自分の命を守る行動がとれるような指導を進めていってほしい。 ・避難訓練は、地域の防災士も一緒に参加したい。 ・コロナも関係して体力も下がっているのではないかと考えている。 ・全身の運動にも取り組んでいってほしい。	
			・年2回（5月・1月）の体力テストを実施し、握力の平均値を調べる。	1回目より2回目の記録が伸びた児童が80%以上	—		—	69.1%	86.4%	C				
【風通しのよい職場づくり】 子どもと向き合う時間を確保して、教育の質の向上に努める。	◎子どもと向き合う時間を確保するため、組織として業務の効率化	・業務改善と見直しによる時間の確保 ・早めに退校する日の設定	<子どもと向き合う時間> ・以前に比べ、業務改善や業務の見直しが進んでいると感じている教職員の割合	90%以上	97.1%	総務	95.8%	A	84.6%	94.0%	B	・校務DXをさらに進めることで会議の時間短縮につなげ、放課後の個人の作業時間を確保できるようにしていく。 ・授業改善をはじめとし、教職員が安心して「やってみよう、やってみよう」と思えることができるよう、本校の実態を明らかにすることや、イメージを共有すること、教職員全員で関わって一人にしないことを大切にしていこう。 ・平均時間外勤務時間は目標には達していないが、減少傾向にある。今年度は廿日市市の指定事業を受け、組織的に授業改善に向けた取組を進めている中でも、見直し・やりがいをもって業務を進め、早めに退校しようとする意識が高まっている。 ・行事の精選や会議・研修の精査を断行し、教職員の業務負担軽減を推進した。 ・月の平均時間外勤務時間について、前年度の同月を下回ったのは、4・8・9月であり、目標には届かなかったが、平均時間が45時間以上の教員は減少している。	・学校の先生の働き方や地域への関わり方が変わってきていると感じる。先生方には、スイッチの切り替えやオンオフの仕方をバランスよく行ってほしい。それが職場の良い雰囲気や個人のやる気につながっていく。 ・地域と学校が一緒に同じ目線で取り組めるよう、地域行事をツールとしてどう利用していくのかを考えていきたい。 ・「子どもと向き合う時間が増えた」の指標は教職員で定義を合わせておく必要がある。	
			<効率的な働き方> ・月の平均時間外勤務時間が、前年度の同月より下回る割合	80%	—		42.8%	D	30%	37.5%	D			